

南海189号の品種名は『ひなた舞』に決定しました

1 育成の背景

本県の主力品種である「ヒノヒカリ」の品質が、地球温暖化の影響により不安定化

このため、高温条件下でも品質や食味が優れる新たな品種として「南海189号」を育成



2 品種名の決定

- 応募総数 4,035 件 (R7年4/18～5/17)
- 品種名検討委員会で「ひなた舞」を決定

「ひなた舞」は

- 舞い上がるほどのおいしさや、米粒が立って舞っている様子
- 音の響きが良く、米と舞をかけられる
- 神楽が連想され、宮崎らしい打ち出しができるをイメージし命名

⇒令和7年9月29日に国へ品種登録を出願
⇒令和8年1月6日に国が種苗法に基づく品種登録出願を受理

暑さに強い米「南海189号」の品種名の決定について

農産園芸課
農業普及技術課

3 「ひなた舞」の特徴

県内主力品種の「ヒノヒカリ」に比べ

- ・高温での品質低下が少ない
- ・病気（いもち病）に強い
- ・収穫量は1割程度多い
- ・食味は同程度で優れている
- ・生育が3～4日遅く、作業ピークを分散できる

【参考】玄米品質の比較



4 県内の生産者・消費者の評価

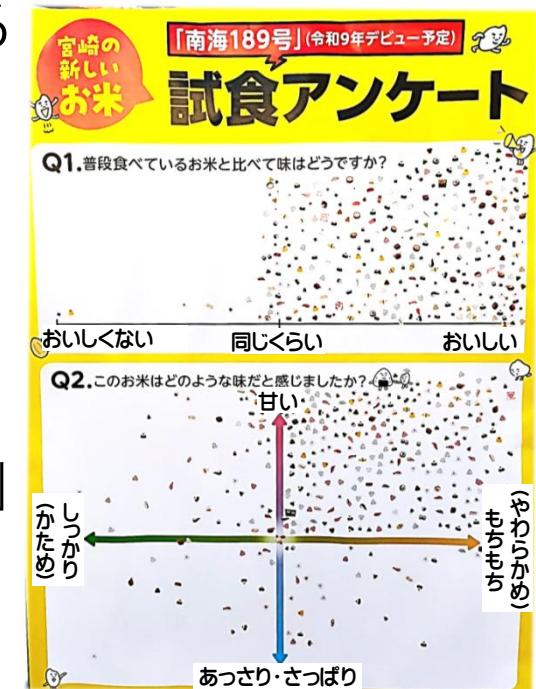
〔生産者〕(R7年試験栽培を行った20者の意見)

- ・品質と収量に優れている
- ・「ひなた舞」に合う栽培技術の確立が必要

〔消費者〕

(R7.12月アンケート約400件)

- ・普段食べているお米と比べ同じくらい「おいしい」
- ・甘くて、もちもちした味



5 今後の予定

県内普通期水稻の作付地域において栽培を推進し、令和9年産から本格販売を予定